

# 平成30年産雑豆の収穫量と 平成31年産雑豆の作付指標面積について

(公財) 日本豆類協会

## 1. 平成30年産雑豆の収穫量

農林水産省大臣官房統計情報部では、平成31年2月25日付けで「平成30年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」について公表した。ここではその調査結果から雑豆に関する部分を抜粋して、下記のとおり紹介する。

### (1) 小豆（乾燥子実）

#### ①作付面積

全国の作付面積は2万3,700haで、前年産に比べ1,000ha（4%）増加した。これは、主産地である北海道において、大豆等からの転換があったためである。

#### ②10a当たり収量

全国の10 a 当たり収量は178kgで、前年産に比べ24%下回った。これは、主産地である北海道において、低温、日照不足及び多雨の影響により、着さや数及び粒数が少なくなったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、81%となった。

#### ③収穫量

全国の収穫量は4万2,100tで、前年産に比べ1万1,300t（21%）減少した。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の93%を占めている。

### (2) いんげん(乾燥子実)

#### ①作付面積

全国の作付面積は7,350haで、前年産に比べ200ha（3%）増加した。これは、主産地である北海道において、大豆等からの転換があったためである。

#### ②10a当たり収量

全国の10 a 当たり収量は133kg で、前年産に比べ44%下回った。これは、主産地である北海道において、低温、日照不足及び多雨の影響により、着さや数及び粒数が少なくなっ

たためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、73%となった。

### ③収穫量

全国の収穫量は9,760 tで、前年産に比べ7,140 t（42%）減少した。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の95%を占めている。

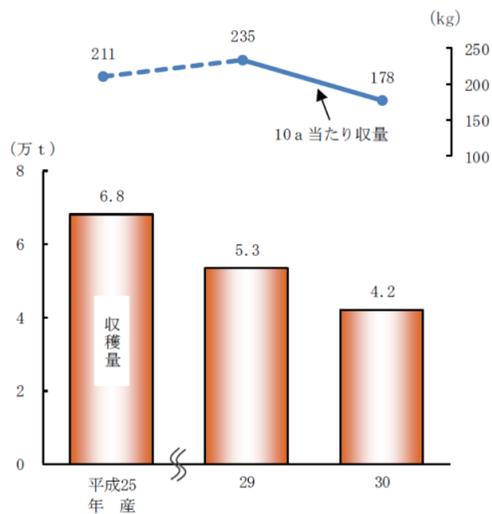


図1 小豆の10a当たり収量及び収穫量の推移

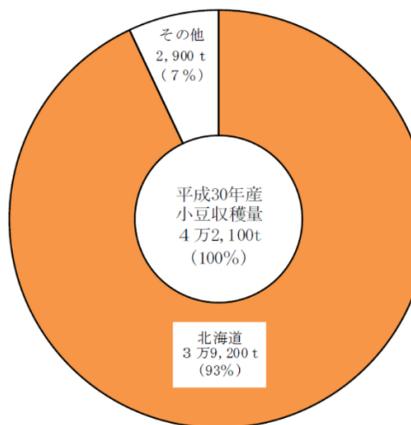


図2 平成30年産小豆の都道府県別収穫量及び割合

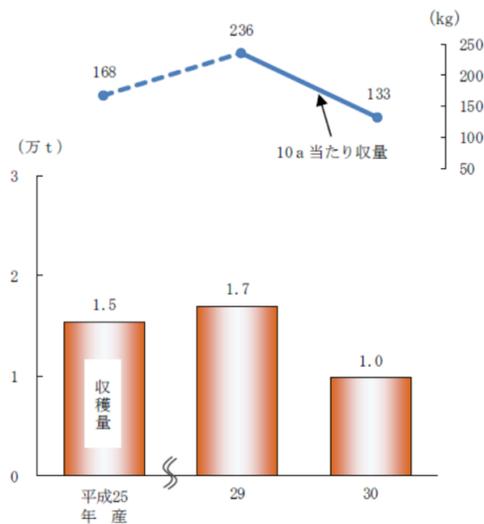


図3 いんげんの10a当たり収量及び収穫量の推移

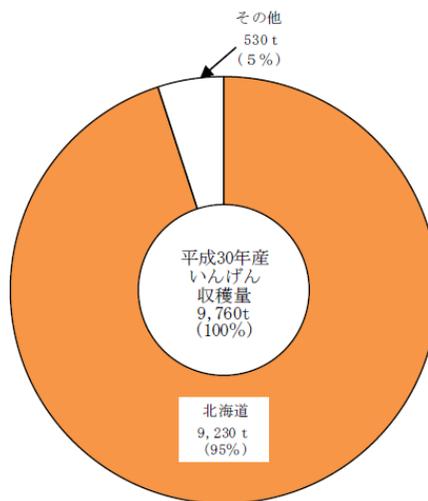


図4 平成30年産いんげんの都道府県別収穫量及び割合

表1 平成30年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						（ 参 考 ）		
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量	10 a 当 たり 平 均 収 量		
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 比		
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
23,700	178	42,100	1,000	104	76	△	11,300	79	81	219		
うち 北海道	19,100	205	39,200	1,200	107	74	△	10,600	79	80	255	
滋 賀	53	55	29	1	102	92	△	2	94	73	75	
京 都	453	41	186	△	8	98	79	△	54	78	71	58
兵 庫	707	56	396	17	102	80	△	87	82	74	76	

表2 平成30年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						（ 参 考 ）	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 比	
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
7,350	133	9,760	200	103	56	△	7,140	58	73	182	
うち 北海道	6,790	136	9,230	160	102	55	△	7,170	56	72	189
群 馬	104	119	124	nc	nc	nc	nc	nc	nc	…	
山 梨	47	91	43	nc	nc	nc	nc	nc	nc	…	
長 野	195	91	177	nc	nc	nc	nc	nc	nc	…	

表3 平成30年産いんげんの種類別作付面積、10a当たり収量及び収穫量（北海道）

区 分	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						（ 参 考 ）	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 比	
北 海 道	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
6,790	136	9,230	160	102	55	△	7,170	56	72	189	
うち 金 時	5,140	114	5,860	70	101	48	△	6,340	48	69	166
手 亡	1,210	212	2,570	150	114	73	△	490	84	89	237

## 2. 平成31年産雑豆の作付指標面積（北海道）

### (1) 小豆

北海道産小豆類作付拡大が求められているなか、JA北海道中央会等により平成31年産の作付指標面積が昨年と同様の22,000haに定められた。

小豆については、大豆との比較（作りやすさや収益性、労働生産性など）等により作付面積が伸び悩んでいる傾向にあるが、実需者からは2022年（平成34年）から義務化がされる原料原産地表示を見据え、中国産加糖あんからの置き換えを念頭に供給量の拡大が望まれているところである。

こうしたことから、小豆の生産振興は、ここ2～3年が大きな山場になることが想定されており、今回の作付指標には、小豆の作付拡大に対する生産者へのメッセージが込められている。

## (2) いんげん

北海道産いんげんの平成31年産の作付指標面積は、菜豆等として、金時、手亡、えん豆等をまとめて7,038haとされた。

金時等については、毎年の作柄変動が大きいことから安定生産に向けては面積の確保が必要とされている。また、高級菜豆については、労働力がかかることから作付面積は減少傾向にあるものの、需給面での引き合いは強い。こうしたことも踏まえ、引き続き豆類全体の方向性の検討を通じて、用途別の供給体制の確立について検討する必要があるとされている。

表4 平成31年産雑豆の作付指標面積（北海道）

単位:ha

区 分		30年産 実績面積	31年産 作付指標	備 考
雑 豆	小豆	18,418	22,000	
	菜豆等	* 10,522	7,038	えん豆等を含む

\*1 30年産実績面積は、道内農協からの聞き取り値の集計

\*2 菜豆等の実績には、菜豆、えん豆、黒大豆を含む